

令和8年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修レポート 抜粋

1	私が小学生の時に、専門家から性教育についての話を聞いた記憶はないが、40代の今、吉田先生から聞いたお話しはとても新鮮で、改めてそうだったのかと気づくことがたくさんあった。子どもの頃は、性に関する事柄について、あまり触れてはいけないと思っていて、正直避けてきた。以前だったら、児童クラブの子どもたちに聞かれたら曖昧に答えていたと思うが、自身の出産や子育て、児童クラブでの関わりを通して、今は曖昧に答えるのではなく、年齢に合った正しい知識を身につけてもらうためにも性教育が必要であることや、失ったら取り返しのつかない、たった一つしかない『いのち』の大切についてを伝えていかなければならないと感じた。 子どもたちそれぞれの個性や特徴を捉えながら、[誉める・叱かる]のバランスを意識し、注意点は短く、わかりやすく伝え、悩んでいたら寄り添い、未来（今後）に繋げていけられるような支援をしてきたい。
2	男女の違いを知ることで互いを思いやる心が生まれるということと、男女に関係なく性的被害から自分の身の守り方を知るということは、まさに小学生に伝えておきたい事であると感じた。子ども自身が何か変、何かおかしいと気付いたときに、気軽に話してもらえるような体制を整えておく必要性を実感し、職場内で話し合っていかなければならないと思った。 心と身体の性の発達、子どもの性教育の大事さを改めて知った。
3	小学生の時に身についた生活習慣がその後の人生には大事である。 命の尊さを学び自分は大切な存在で自分を大事にする気持ちを持つこと身の守り方を知り相談できるようにすること 身近な人が性被害に会った時に「あなたは悪くない」と繰り返し気持ちを傾聴して受け止めて抱え込まずネットや電話相談、ワンストップ支援センターなどを利用する。

4	今回の研修では小学生から高校生まで対象にした包括的性教育について学んだ。性に関する知識だけでなく、自分や相手を大切にすること、同意の大切さ、SNSの安全な利用の仕方、デートDVや性被害の予防など子供たちが安全に成長するために必要な内容であることを理解しました。また年齢に応じた伝え方、相談しやすい環境作りも学びました。子ども一人一人の気持ちに寄り添い、正しい知識と自己肯定感を育めるよう私たちのクラブでも活かしていきたい。
5	飯事遊びの中で高学年生と低学年生男女と一緒に寝たり膝に抱っこしたりすることがあった。まだ小学生と思う反面、来年は中学生た考えた時にどのような声掛けをすべきだったか、今回の講義を聴いて小学生に向けでのポイントを知る事ができた。 身体のプライベートゾーンや適度な距離感の大切さ、自分の感情の表し方や相手の気持ちの共感など遊びや生活の中で伝えて行かなければと感じた。また、ポロッと本音を話す場所だからこそ、おかしいと思ったら相談できる支援員でありたいと思った。
6	古田先生とてもわかりやすかったです！私の学童では6年男子5人がお互いの股間を触り合うという遊びをしていて誰も嫌がりません。毎日何を言っても止めずいつになったら大人になるのかなとみんなで悩んでいます。面白いから、気持ちいいからと言ってますが不快な思いするし、早速見えないとこでやってと言ってみようと思います。ありがとうございました！